



株式会社ジェノバ
2024年9月期

決算補足説明資料

東証グロース市場 5570

2024年11月19日

INDEX

01 会社概要

02 2024年9月期決算報告

03 通期業績予想

04 事業紹介

Appendix

01

会社概要

Company profile

MISSION

高品質な位置情報の提供により安心・安全な
社会づくりに貢献する

VISION

リアルタイムかつ高精度な位置情報サービスで
事業を拡大する

会社概要

| | | |
|---------|----------------------|---------------|
| 会社名 | 株式会社ジェノバ | |
| 証券コード | 5570 | |
| 設立 | 2002年1月 | |
| 本社所在地 | 東京都千代田区神田須田町一丁目34番地4 | |
| 事業内容 | GNSS補正情報配信サービス等 | |
| 役員 | 代表取締役社長 | 戸上 敏 |
| | 取締役 | 河野 芳道 |
| | 社外取締役 | 長尾 隆史 (弁護士) |
| | 監査役 | 菅原 光一 |
| | 社外監査役 | 大鹿 博文 (税理士) |
| | 社外監査役 | 野地 博久 (公認会計士) |
| 資本金 | 4億8,775万円 | |
| 発行済株式総数 | 14,470,000株 | |
| 従業員数 | 19名 (臨時雇用職員2名含む) | |
| 決算月 | 9月決算 | |

* 2024年9月30日現在

2002年1月

会社設立

5月

国土地理院が電子基準点からの情報を民間開放（約200点）
これに伴い、ネットワーク型RTK-GPS補正情報配信サービスを開始

2003年6月

ネットワーク型RTK-GPS補正データ全国配信を開始（約1,200点）

2004年7月

国土地理院が「ネットワーク型RTK-GPSを利用する公共測量作業マニュアル(案)」（基準点測量編）を公表

2007年3月

特許「測量システム」（特許第3926732号）取得

2013年5月

マルチGNSS補正情報配信サービスの全国配信を開始

2016年5月

業界初、電子基準点約1,300点を使用した配信サービス開始

2018年4月

QZS（準天頂衛星）とGPS L5データを含んだマルチGNSS配信サービスを開始

2020年4月

KDDI株式会社と業務提携締結

2021年6月

株式会社日立産機システムと資本業務提携締結

2023年4月

東京証券取引所グロース市場へ上場

02

2024年9月期 決算説明

Financial results highlights

本決算のポイント

◆ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに過去最高

※売上高は9期連続、営業利益、経常利益、当期純利益は3期連続

◆ ICT土木、IT農業での需要が強い

※土木分野、農業分野ともに国策による強化の側面が強く、需要が年々増加しております。

◆ 期末配当を、4円00銭から5円00銭に増配

決算ハイライト

2024年9月期
決算報告

| | FY23/9 | FY24/9 (実績) | | FY24/9 計画 | |
|-----------|--------------|--------------|-------|--------------|--------|
| (単位：百万円) | | | 前年同期比 | | 計画比 |
| 売上高 | <u>1,206</u> | <u>1,265</u> | +4.9% | <u>1,273</u> | 99.4% |
| 売上総利益 | <u>957</u> | <u>1,033</u> | +7.9% | | |
| (売上高総利益率) | (79.4%) | (81.7%) | | | |
| 営業利益 | <u>651</u> | <u>694</u> | +6.7% | <u>666</u> | 104.3% |
| (営業利益率) | (54.0%) | (54.9%) | | (52.3%) | |
| 経常利益 | <u>641</u> | <u>696</u> | +8.7% | <u>667</u> | 104.5% |
| (経常利益率) | (53.2%) | (55.1%) | | (52.4%) | |
| 当期純利益 | <u>443</u> | <u>482</u> | +8.7% | <u>455</u> | 105.8% |
| (当期純利益率) | (36.8%) | (38.1%) | | (35.8%) | |

2024年9月期も
順調に成長しております。

計画に対して

- ✓売上高は、ほぼ計画通り
- ✓営業利益、経常利益、
四半期純利益は、全て計画
数値を上回っての着地

経営成績数値

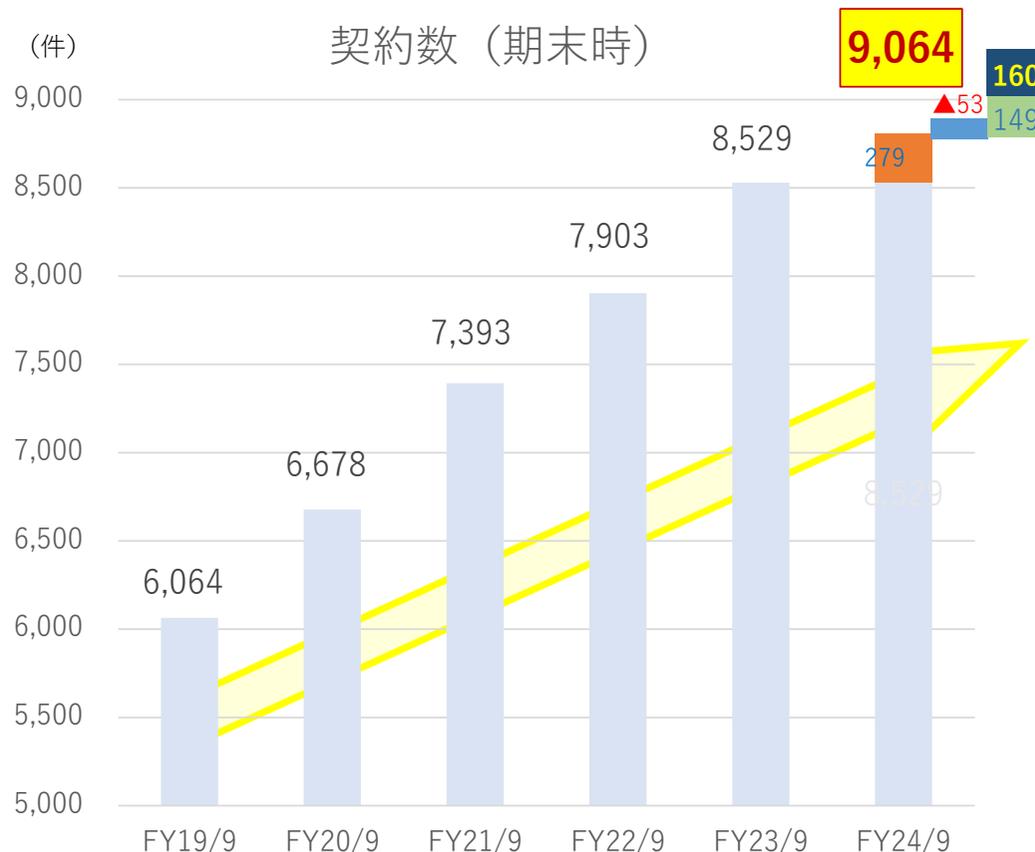
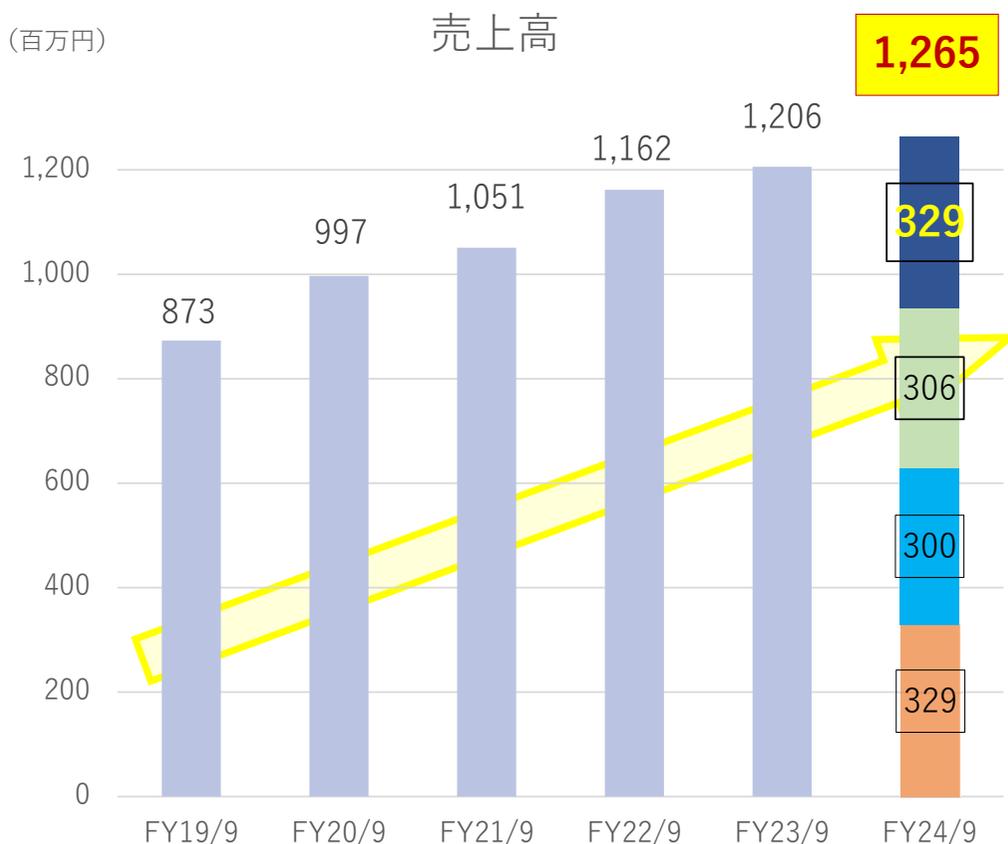
- ✓EPS：35円03銭 (過去最高)
- ✓BPS：255円95銭 (過去最高)
- ✓ROE：14.5%
- ✓総資産経常利益率：18.6%

配当

- ✓1株当たり：5円00銭 (期末)
- ✓配当性向：14.3%

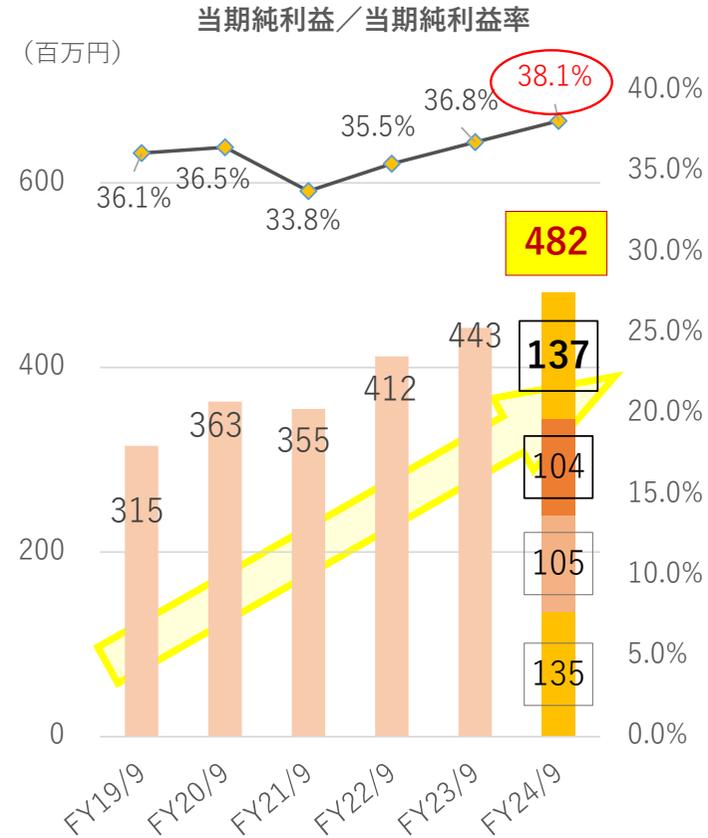
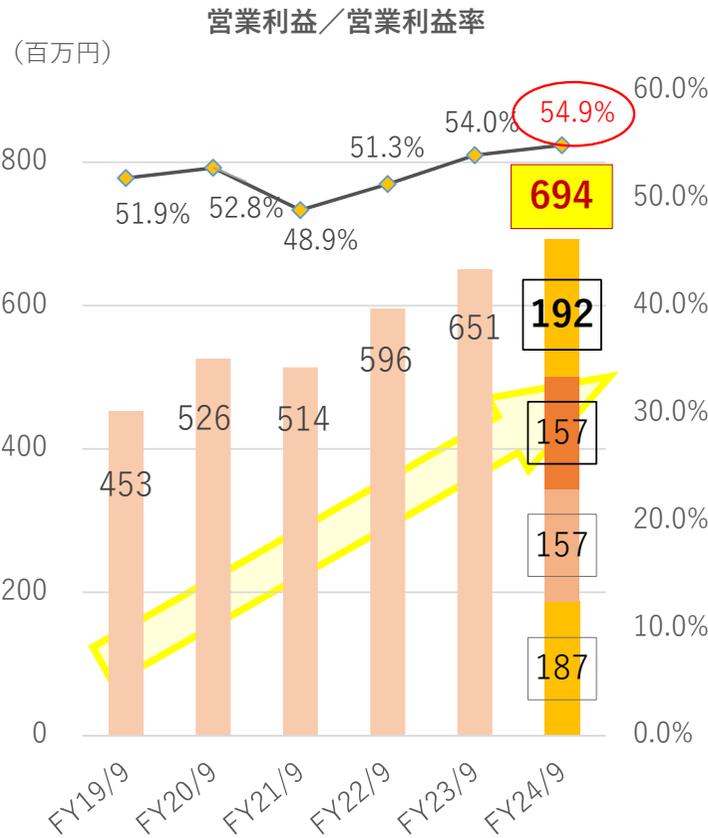
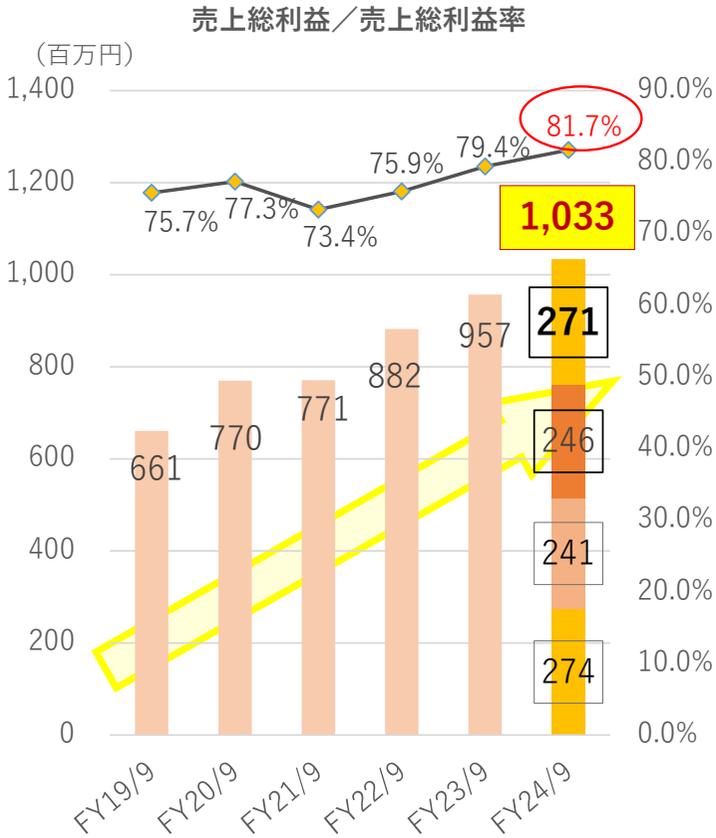
業績推移①（過年度5カ年+当期） 売上高・契約数

- ✓ 年間の売上高は、FY16/9 から9期連続過去最高を更新しています。 ※FY16/9(年間)売上高：530百万円
- ✓ 契約数は、測量分野は堅調に増加。ICT土木・IT農業分野は大きく増加しています。
- ✓ 契約数の増加と利用時間の増加が相俟って、売上高の増加に貢献。



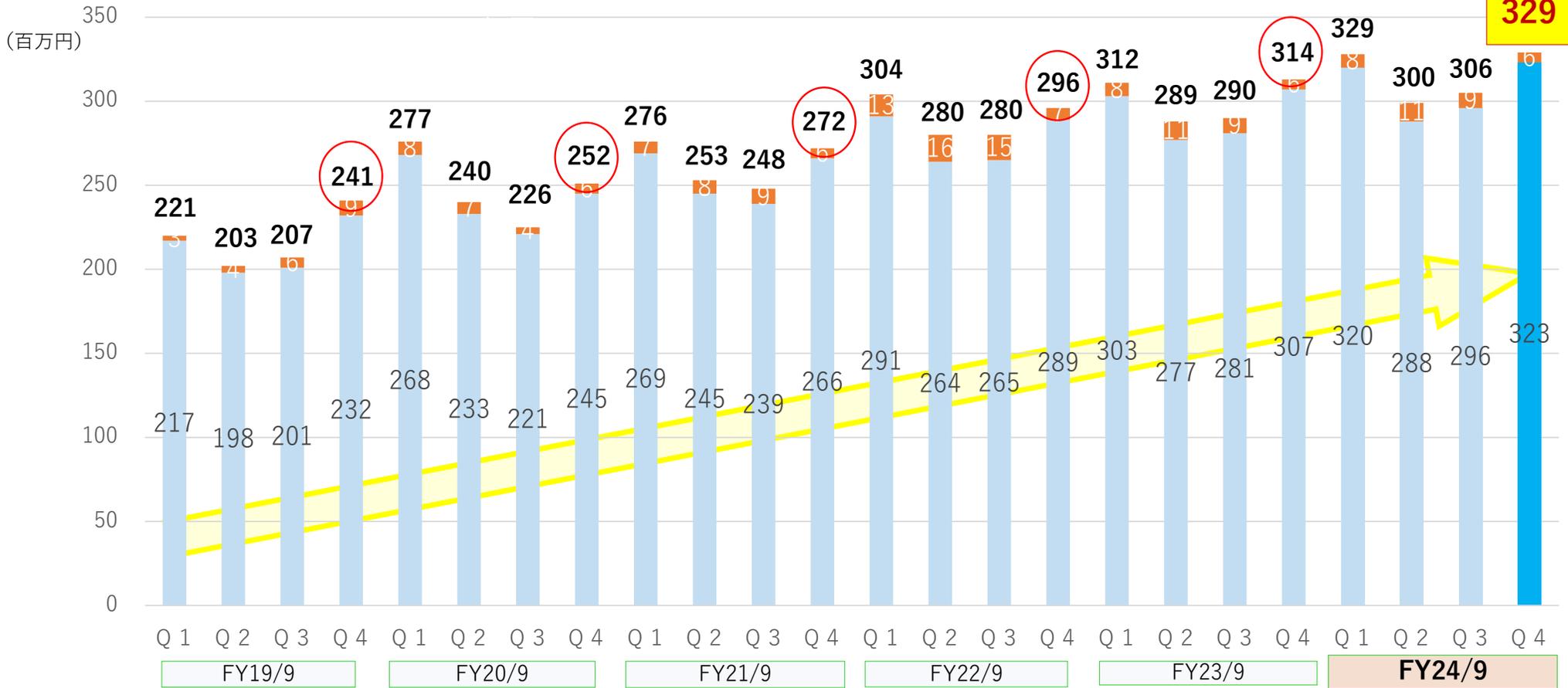
業績推移②（過年度5カ年+当期） 売上総利益、営業利益、純利益

- ✓ 売上総利益、営業利益、当期純利益ともに過去最高益となりました。
- ✓ 当期も高い利益率を維持。粗利率は81.7%、営業利益率は54.9%、当期純利益率は38.1%となりました。



売上高（四半期）の推移 （過年度5か年+当期）

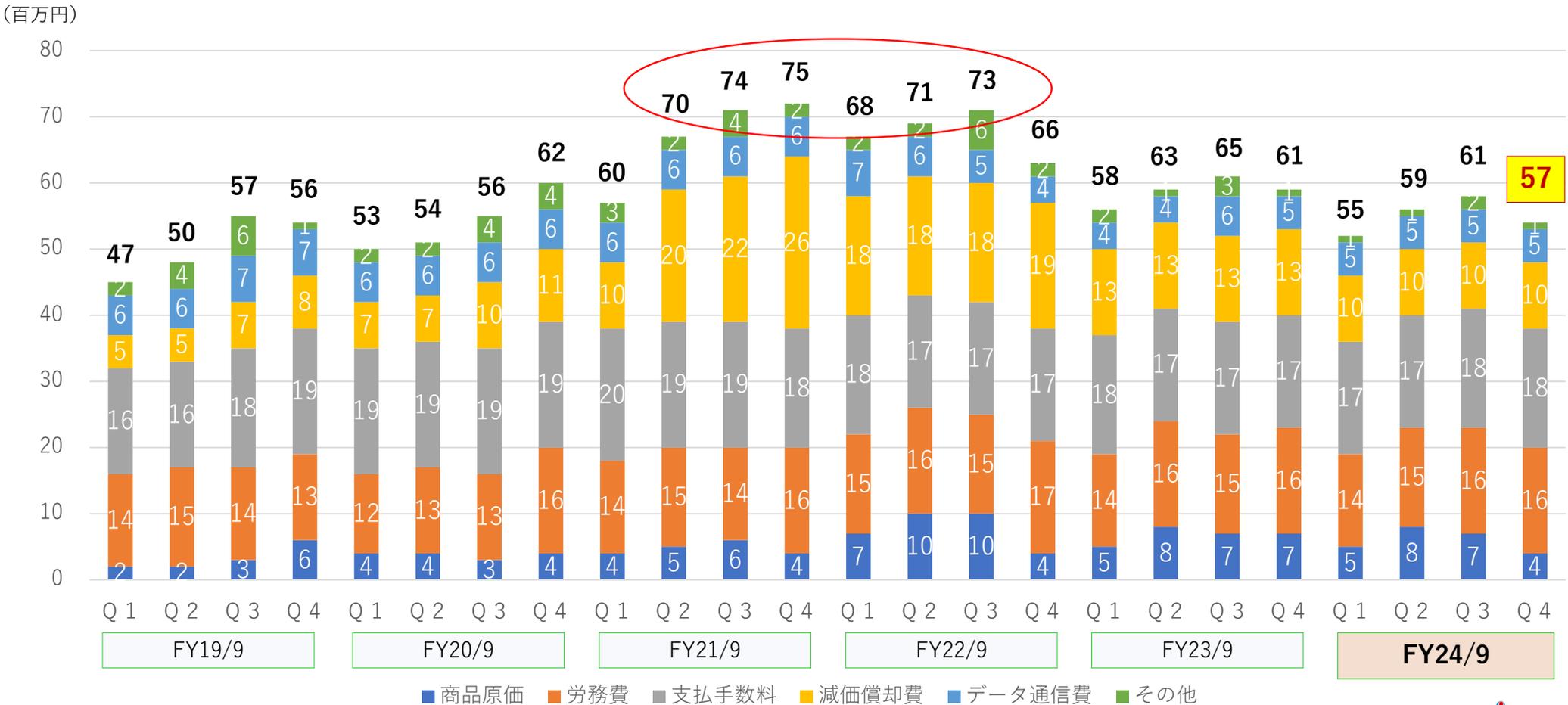
- ✓売上高は、四半期毎の季節変動要因を受けながらも右肩上がり続けています。今後もこの傾向は続くと考えています。
- ✓当期4Qも前年同四半期を上回りました。また、当期においては全て四半期売上高で300百万円を超えました。



■ データ通信サービス ■ 通信機器販売

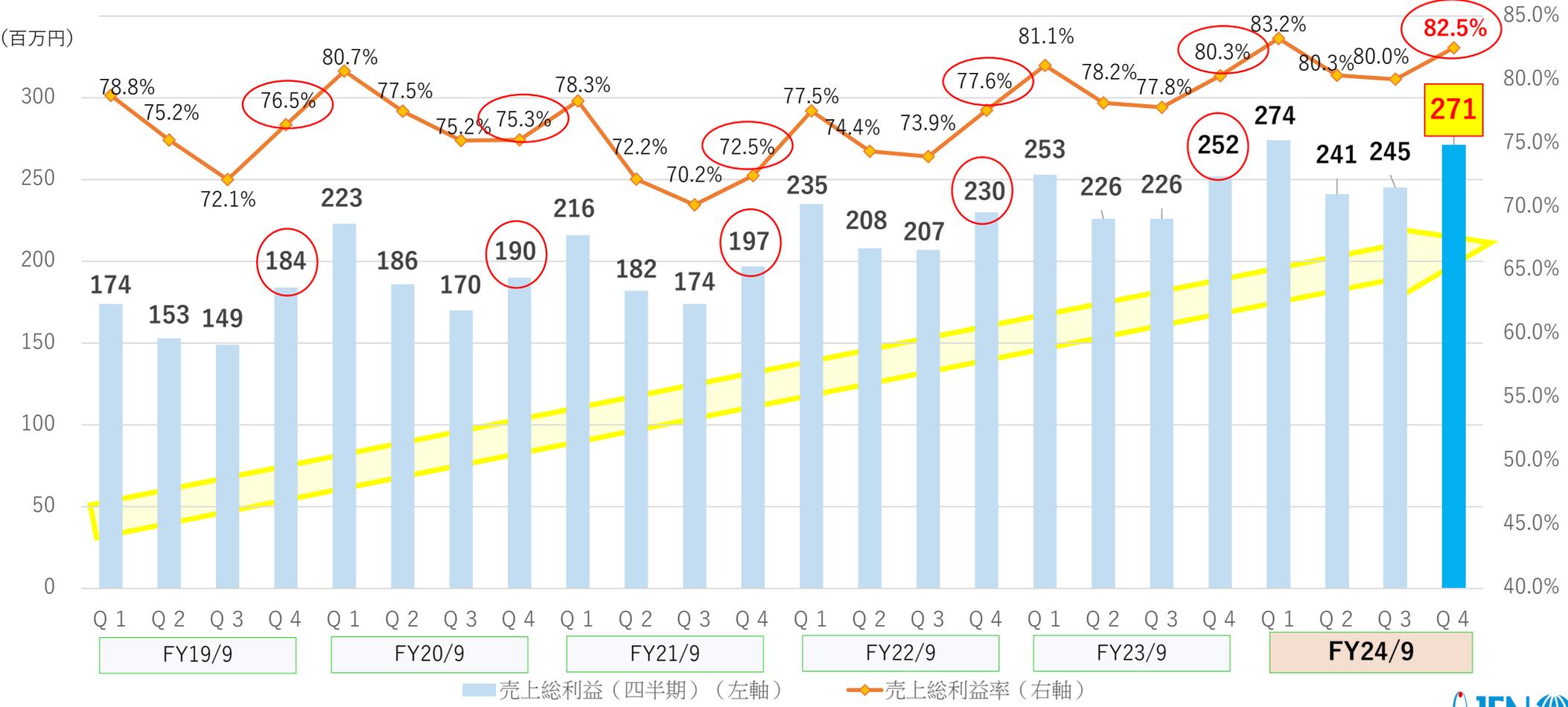
売上原価（四半期）の推移 （過年度5カ年+当期）

- ✓現在の当社のビジネスモデルにおいては、売上高の上昇に売上原価は比例しません。
- ✓サーバーの増強など（設備投資）により売上原価が増加する場合などがあります（ex. FY21/9、22/9）。



売上総利益（四半期）の推移 （過年度5カ年+当期）

- ✓ 売上高に売上原価が比例しないため、売上総利益・粗利率ともに前年同四半期比で着実にベースアップしております。
- ✓ 当期4Qも、前年同四半期を上回り、売上総利益・粗利率ともに四半期ベースで過去最高近くを実現しております。

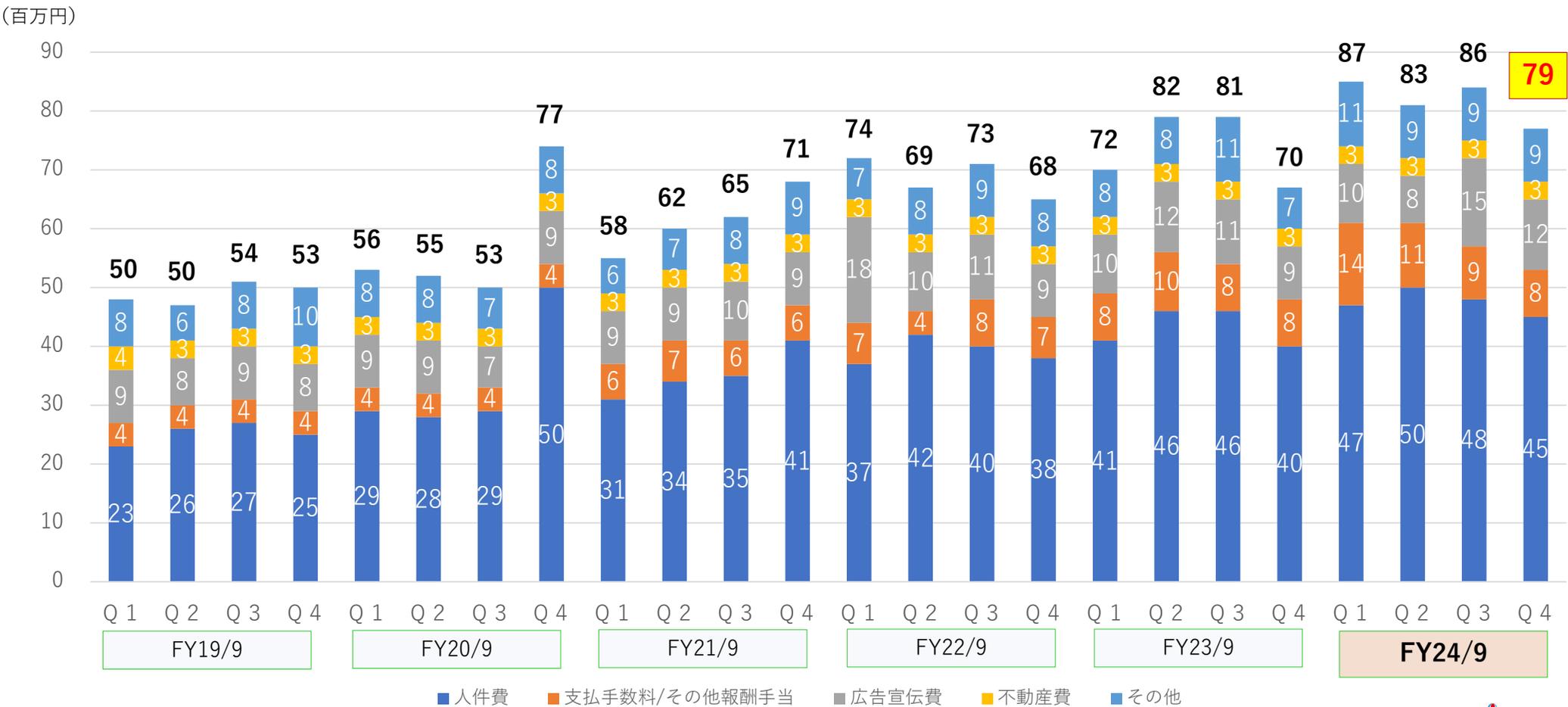


■ 売上総利益（四半期）（左軸） ◆ 売上総利益率（右軸）



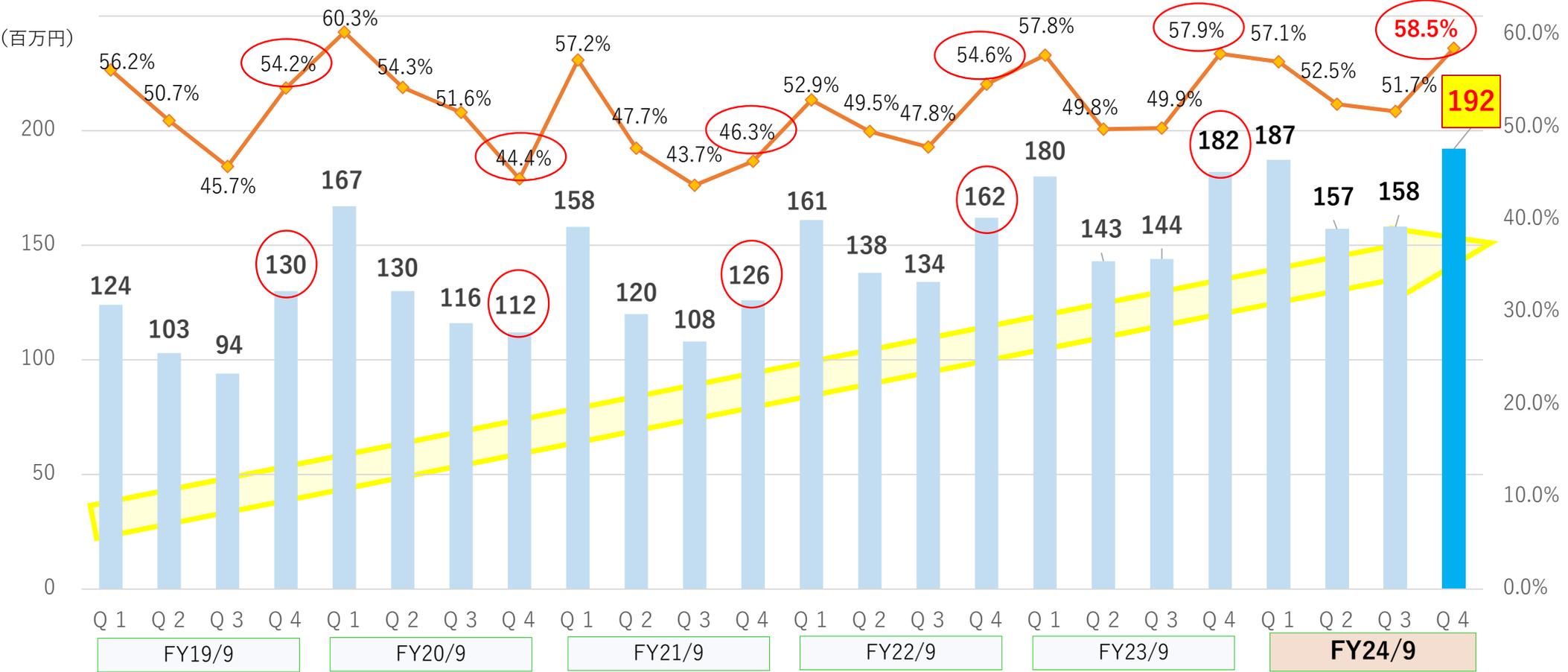
販管費（四半期）の推移 （過年度5カ年+当期）

- ✓ 利用用途の裾野拡大を見越し、当期においては展示会等に積極的に出店いたしました。
- ✓ 人員は、4Qに+1名。2024年9月期中に+3名を見込んでおりましたが2025年9月期にズレ込んでおります。



営業利益（四半期）の推移 （過年度5カ年+当期）

- ✓ 販管費が緩やかに上昇している影響はありますが、4Qにおいても高い営業利益率をキープしております。
- ✓ 4Qも、前年同四半期を上回り、1Q、2Q、3Q（それぞれ会計期間）同様に過去最高の営業利益額を実現しております。



■ 営業利益（四半期）（左軸） ◆ 営業利益率（右軸）



貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

貸借対照表

| (単位：百万円) | FY22/9末 | FY23/9末 | FY24/9末 |
|----------|---------|---------|---------|
| 流動資産 | 2,506 | 3,367 | 3,699 |
| 現金及び預金 | 2,355 | 3,231 | 3,570 |
| 固定資産 | 178 | 124 | 284 |
| 有形固定資産 | 119 | 74 | 44 |
| 無形固定資産 | 13 | 7 | 6 |
| 投資その他資産 | 46 | 42 | 233 |
| 資産合計 | 2,685 | 3,491 | 3,983 |
| 流動負債 | 354 | 346 | 373 |
| 固定負債 | 42 | 52 | 61 |
| 負債合計 | 397 | 399 | 435 |
| 純資産合計 | 2,287 | 3,092 | 3,548 |
| 負債・純資産合計 | 2,685 | 3,491 | 3,983 |
| 自己資本比率 | 85.2% | 88.6% | 89.1% |

キャッシュ・フロー計算書

| (単位：百万円) | FY22/9 | FY23/9 | FY24/9 |
|--------------------------|--------|--------|--------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 563 | 536 | 572 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △19 | △6 | △206 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △216 | 346 | △26 |
| 現金及び現金同等物の 増減額 | 327 | 876 | 338 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 1,968 | 2,295 | 3,171 |
| 現金及び現金同等物の 期末（四半期末）残高 | 2,295 | 3,171 | 3,510 |

- ✓ 高い自己資本比率（89.1%）を維持
- ✓ プラスのキャッシュ・フローを生み出す優れた収益モデル

03

2025年9月期業績予想

Earnings guidance

2025年9月期の業績予想

| F Y 24/9 実績 | | F Y 25/9 計画 | |
|-------------|---------|--------------|--------|
| (単位：百万円) | | 前期比 | |
| 売上高 | 1,265 | <u>1,333</u> | 105.4% |
| 売上総利益 | 1,033 | | |
| (売上高総利益率) | (81.7%) | | |
| 営業利益 | 694 | <u>715</u> | 102.9% |
| (営業利益率) | (54.9%) | (53.6%) | |
| 経常利益 | 696 | <u>718</u> | 103.2% |
| (経常利益率) | (55.1%) | (53.9%) | |
| 当期純利益 | 482 | <u>498</u> | 103.4% |
| (当期純利益率) | (38.1%) | (37.4%) | |

2025年9月期も売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、全てにおいて
過去最高を目指します。

売上高

- ✓ 測量分野は今期も堅実な成長を計画
- ✓ ICT土木、IT農業分野は、国の推進施策でもあり、前期以上の増加を計画
- ✓ ドローンの活用される場面が更に増えてくると考えています
- ✓ 業務提携先などに行っている実証実験事例などが徐々にリリースされる
- ✓ 新たな業務提携先の模索

営業利益以下

- ✓ 今後1～2年で5名程度の増員を計画
- それに伴うコスト増を計画に折込み

配当

- ✓ 増配計画： **6円00銭** (2024年9月期予定：5円00銭)

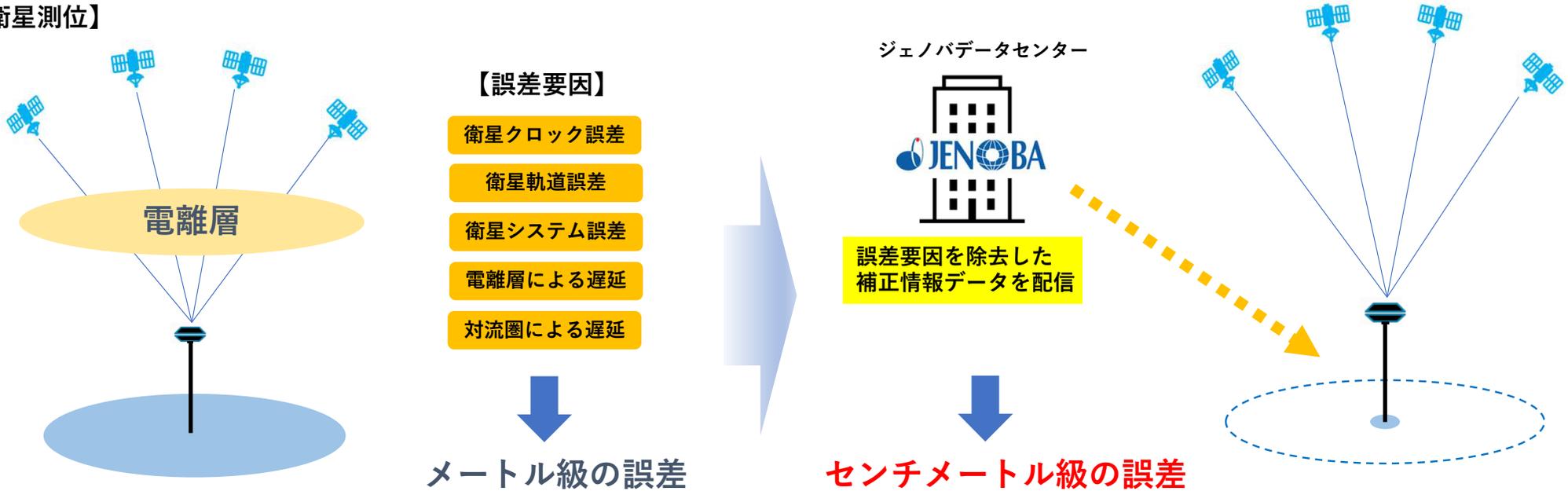
04 事業紹介

Our business

サービス概要

■ ジェノバのリアルタイム位置補正情報は*GNSS機器に対して提供しています。

【衛星測位】



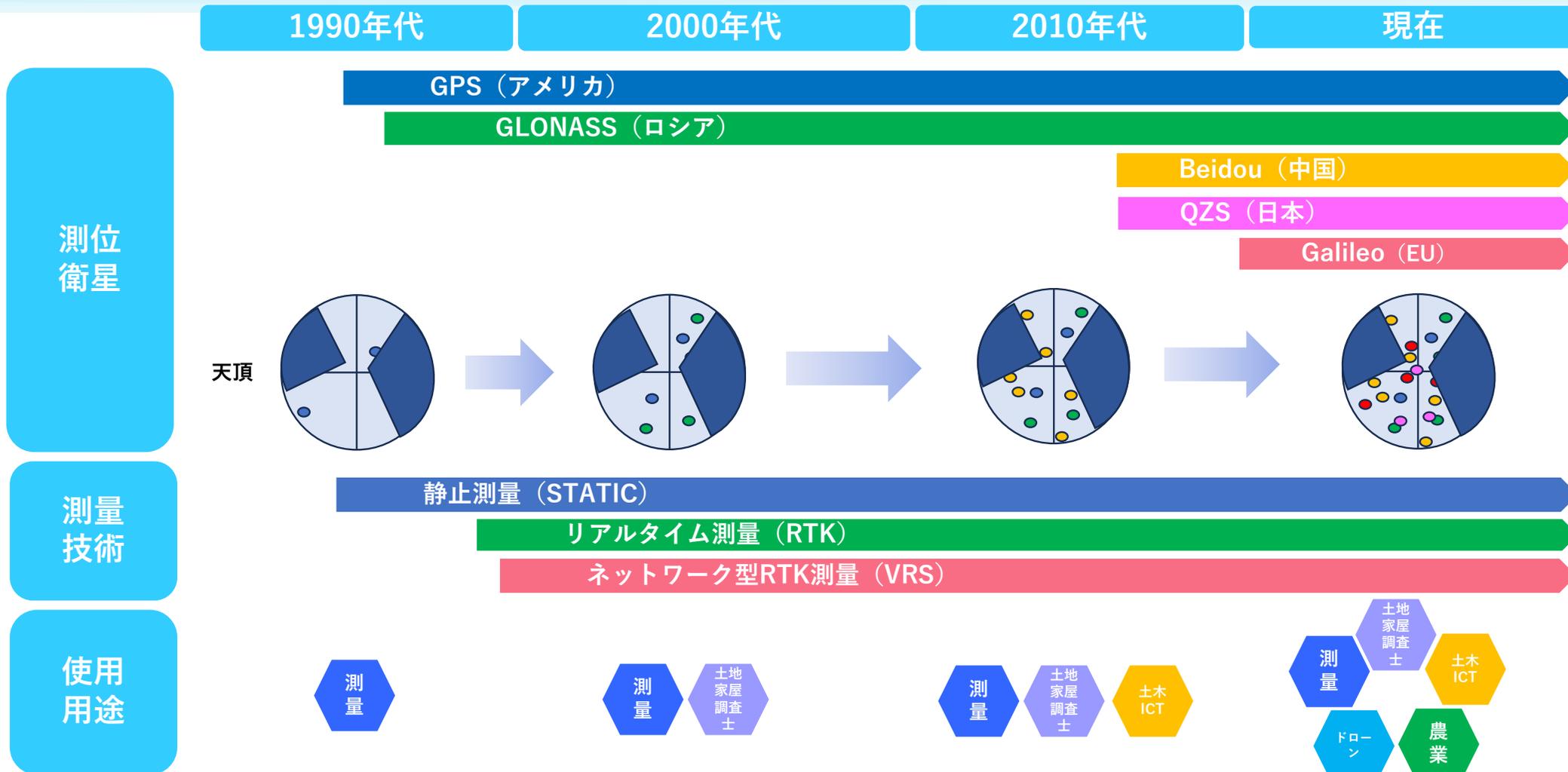
GNSS機器単体で観測する単独測位の場合、衛星から送られてくるデータには様々な誤差要因が含まれており、メートル単位の誤差が生じます。

例：カーナビや携帯の位置情報 etc.

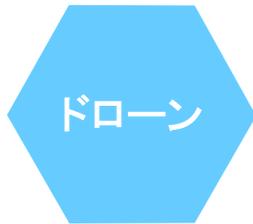
補正データを受信した*GNSS受信機は、リアルタイムに自己位置を正確に解析することが出来るため、誤差が数メートルから数センチになります。この高精度な位置測位が実現することで、測量分野を始め様々な分野へ利用が拡大しています。

*GNSS: GNSSは [Global Navigation Satellite System : 全地球衛星測位システム] の総称で米国のGPS、ロシアのGLONASS、EUのGalileo、中国のBeiDou、日本の準天頂衛星システム (QZS) などがあります。

GNSSの変遷



主力サービス提供分野



サービス活用事例

測量



MMSを活用した都市空間 3Dモデル化

クモノスコオペレーション様

MMS（モバイルマッピングシステム）は、車両等で移動しながら高精度な3次元計測を行うシステムです。車両や船舶、鉄道等の移動体に3Dレーザースキャナを搭載して計測することにより、広範囲を効率良く高精度・高密度に計測が可能です。国家座標に準拠したジェノバ社の補正データは有用であり、取得された3次元点群データは、地図情報レベル1/500にも対応可能な精度が可能です。

IT農業



草地造成改良作業のスマート化

公益財団法人 北海道農業公社様

草地造成改良作業として、耕起、土壌改良材散布等を行っておりますが、昨今の人手不足の問題を背景にスマート化をすすめております。いずれの作業もトラクターをはじめとした農機で行うのですが、農機の操縦に熟練度が求められます。スマート化した農機の作業は、熟練ドライバーが実施した作業成果と遜色なく、業務の人手不足の問題解消に寄与することができています。

土木ICT施工



3DMCマシンコントロール機 使用による土工作業の効率化

湯澤工業株式会社様

GNSSと3D-MCを活用することで設計データ通りに高精度かつ効率的に施工を行うことができました。また、掘削補助員を必要とせず丁張りなどの敷設を減らし熟練者のオペレーターでなくても、モニターを確認しながら操作できることにより高品質かつ安全に施工ができるようになりました。また、設計データ位置と現場位置の較差が重要になるため、国家座標に対応し安定しているジェノバの配信がICT施工においてとても有用です。

ドローン



ドローン写真測量で活用

五十嵐建設株式会社様

ここ数年で弊社におきましてもUAVは写真測量に欠かせない存在になりました。また、ネットワーク型RTKを組み合わせる事で更に作業の効率化が図れています。GNSS搭載のUAVを用いた写真測量は対空標識の設置数をかなり少なく出来るメリットがあり、作業効率化に役立っています。

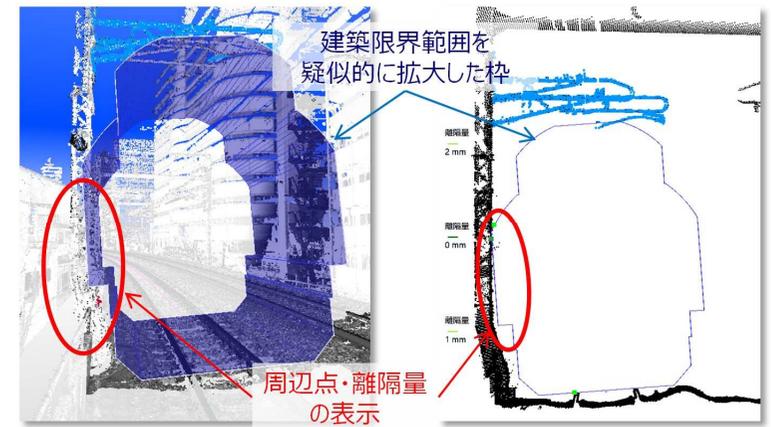
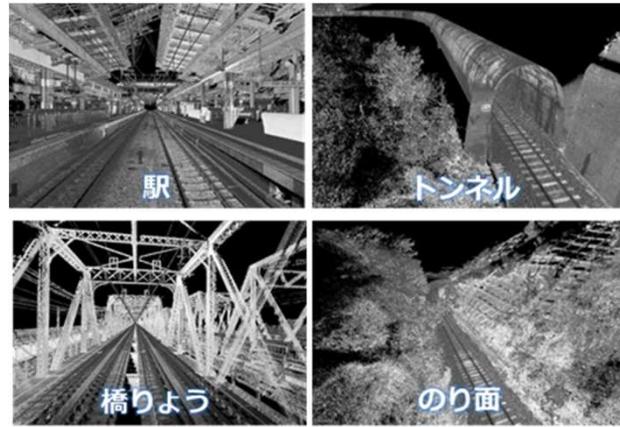
サービス活用事例

測量

鉄道分野へのMMS (Mobile Mapping System) 技術の適用



アジア航測株式会社様



道路分野で普及しているMMS (Mobile Mapping System) 技術を鉄道分野に応用したサービスである、Railis® (Railway LiDAR inspection system: レイリス) で活用されたものです。アジア航測様とJR西日本様との共同開発成果を基に構築された鉄道MMS計測・解析・システムのサービスの、鉄道事業者向けに最先端の3次元空間情報計測・解析技術が提供されています。MMSの位置情報を解析するにあたり当社の後処理データサービスが利用されています。システムを介して後処理データ連携をしているため、迅速かつ適切に電子基準点情報を取得し解析することが可能になっております。このシステムの導入により軌道データを中心に線路周辺の3次元情報を効率良く取得でき、さらには、線路内立入作業時間の短縮、省力化による保安度の向上、取得した3次元点群データによる机上での現場状況把握、設計・発注・設備維持管理・保守への活用など、高品質で効率的な運用業務を行うことが可能となり、現地でいう調査・測定作業を効率化・高精度化することで、人口減少時代の鉄道事業が抱える様々な課題解決に貢献しております。

サービス活用事例

土木ICT施工

無人バックホウ遠隔操作への活用



国土交通省中国地方整備局中国技術事務所様

国土交通省中国地方整備局中国技術事務所が、インフラ整備・管理や公共サービスを行う現場における生産性向上や働き方改革を推進するため、人材育成の一環として、デジタル技術を活用した調査・計画・設計や施工管理、監督検査などに対応する施設として、中国インフラDXセンターを整備して、DX体験の一つとして、ICTバックホウを用いた無人化施工体験を実施しています。このICTバックホウには、ジェノバのネットワーク型RTK（VRS）を使用しています。バックホウにはICT施工用のマシンガイダンスシステムが搭載されており、ネットワーク型RTK（VRS）を使用することで、GNSS基地局等を設置することなく、準備を簡単に行えます。バックホウに搭載しているカメラや現場の俯瞰カメラの映像、マシンガイダンスシステムのモニターを見ながら、遠隔操縦用無線送信機による操作を行うことができます。

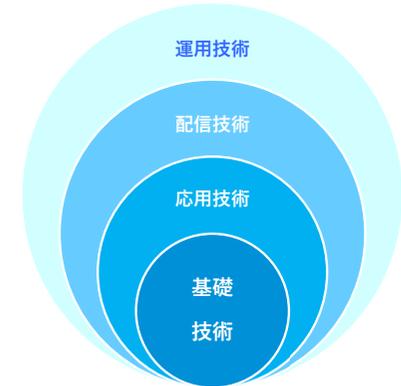
高精度な補正データを安定提供する技術

特長① 長年にわたり蓄積された高精度位置情報の配信ノウハウ

課題: 配信精度が安定しない。配信点数が多くなることによるデータ遅延が起こる

原因: 安定配信のためのノウハウ不足

- **解決:** 当社では長年にわたり、配信用の解析システム提供メーカーとの情報交換により、日本における大規模な配信システムの構築を行ってきており、サーバーの構成比やネットワーク関連のシステム構成ノウハウなどの知識の積み上げと、大規模災害後の運用ノウハウなど、高精度位置情報配信業者のパイオニアとしての数多くの経験が安定配信に寄与しています

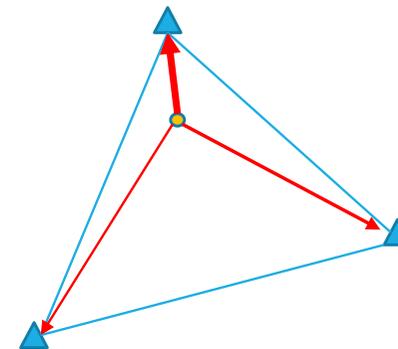


特長② 最寄りの電子基準点成果に整合(特許第5832050号)

課題: 地図に整合しない、公共作業では国家座標を使用しなければならない

原因: 日本周辺には複数のプレートがあり常に移動しているため位置が常にずれる

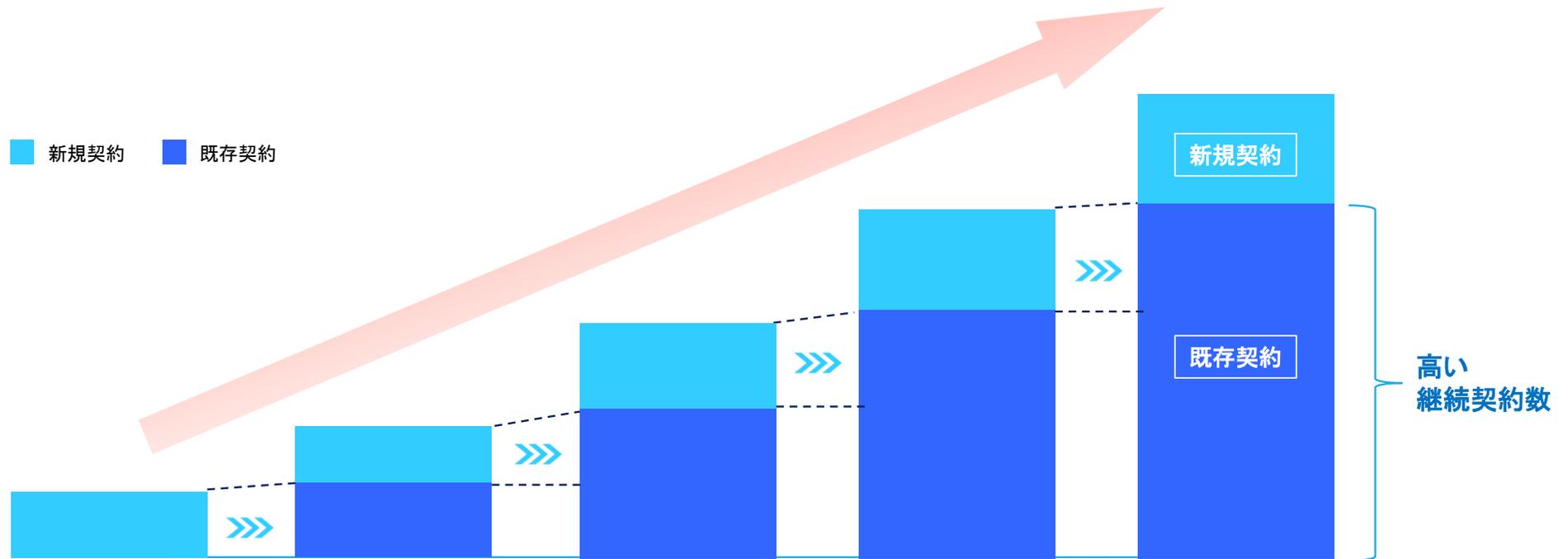
- **解決:** 当社では全ての電子基準点の中から観測位置最寄りの3点を自動的に選定し、国土地理院が公表している最新座標値に整合(当社特許技術)するよう補正データ配信を行います。



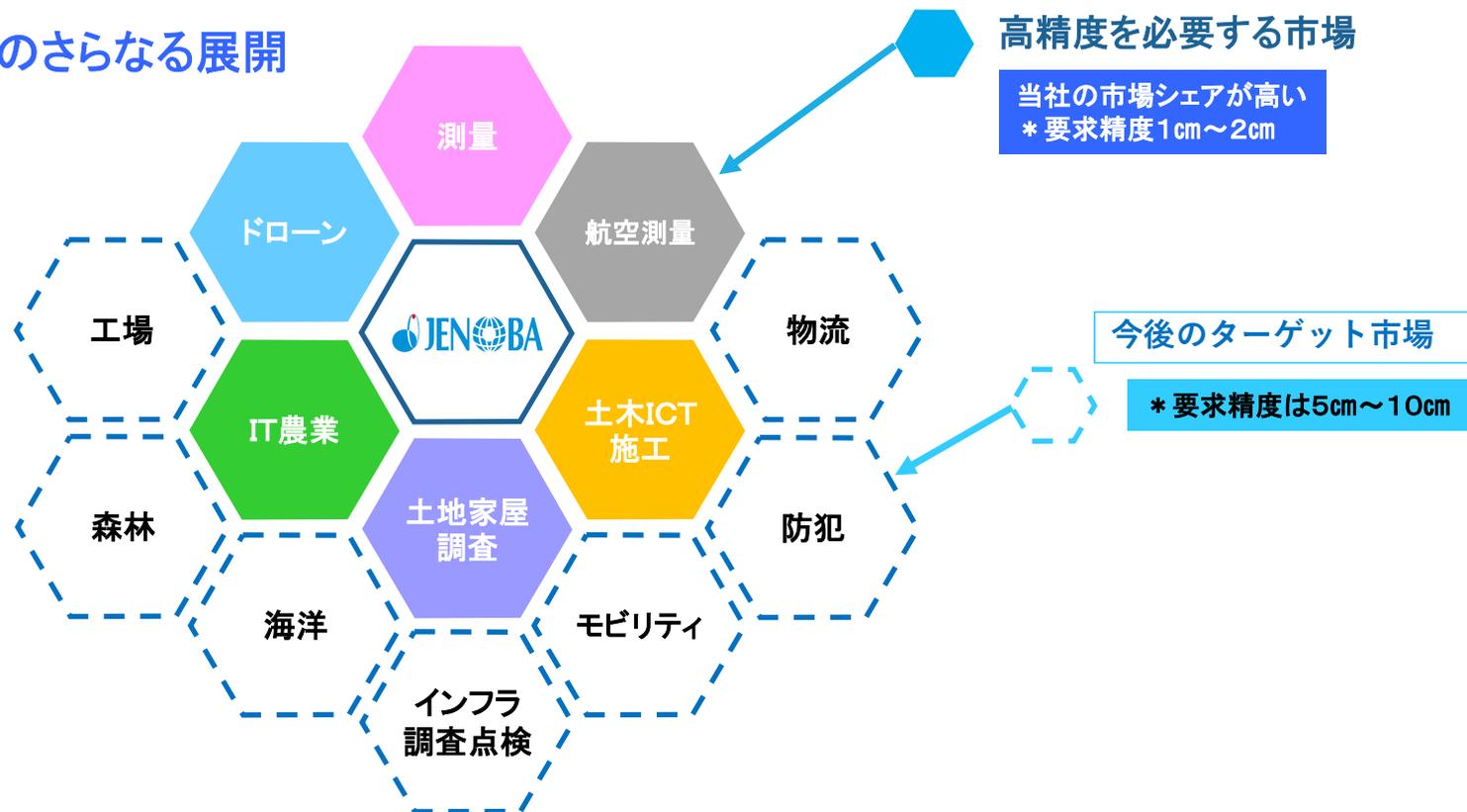
リアルタイムに観測される電子基準点の今期座標を国家座標(地図上の座標)に変換して整合させる技術

ストック型ビジネスモデル

- 新規契約が継続して積み上がり、既存契約が増加するため、安定した売り上げ成長が可能です
- ドローン、IT農業等でのさらなる拡大や、新規領域でのサービス展開を進め、新規契約の増加スピード拡大を狙います



測量分野以外へのさらなる展開



対象となるターゲット市場を広げ、新ビジネスパートナーを分野ごとに形成し契約件数の増加を計画

APPENDIX

※過去に掲載していた事例もこちらに掲載しています。ご参考くださいませ。

APPENDIX

国土交通省「i-Construction2.0 ～建設現場のオートメーション化～」を発表。

【目標】 2040年度までに建設現場において少なくとも省人化3割すなわち、生産性1.5倍に向上
多様な人材が活躍でき、未来へ前向きな新3K（給与・休暇・希望）を建設現場で実現

【i-Construction 2.0 の3つの柱】

- ① 施工のオートメーション化
- ② データ連携のオートメーション化（デジタル化・ペーパーレス化）
- ③ 施工管理のオートメーション化（リモート化・オフサイト化）



高精度位置情報は
重要な位置を占める



APPENDIX

ICT施工の拡大

国土交通省ではICT活用のための工種を拡充しており、中小建設業がICTを活用しやすくなるように小規模工事への更なる適用拡大を推進し、令和6年度から付帯道路施設施工、電線共同溝の適用を開始。**G N S S**を使用した機材も拡大する見込み

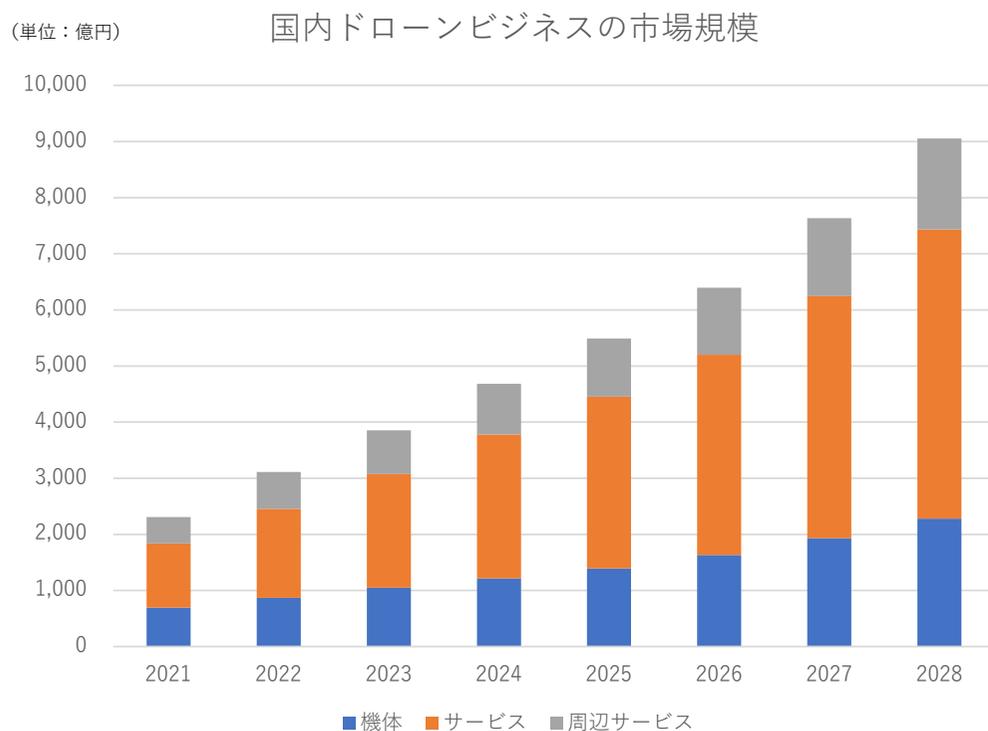
| 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 (予定) | |
|--------|------------|------------|-------------------|--------------------|---------------------|-------|-------|---------------|---------------------|
| ICT土工 | | | | | | | | | |
| | ICT舗装工 | | | | | | | | |
| | ICT浚渫工（港湾） | | | | | | | | |
| | | ICT浚渫工（河川） | | | | | | | |
| | | | ICT地盤改良工 | | | | | | |
| | | | ICT法面工 | | | | | | |
| | | | ICT付帯構造物設置工 | | | | | | |
| | | | | ICT舗装工（修繕工） | | | | | |
| | | | | ICT基礎工・ブロック据付工（港湾） | | | | | |
| | | | | | ICT構造物工（橋脚・橋台）（基礎工） | | | | |
| | | | | | ICT海上地盤改良工（床掘工・置換工） | | | | |
| | | | | | | 小規模土工 | | | ・付帯道路施設等 ・電線共同溝工 |
| | | | 民間等の要望を踏まえ更なる工種拡大 | | | | | | |

*令和6年3月27日 JCMA i-construction施工推進本部会合で出された資料を基に当社で作成

Copyright © 2024 JENOBA CO., LTD. All rights reserved.

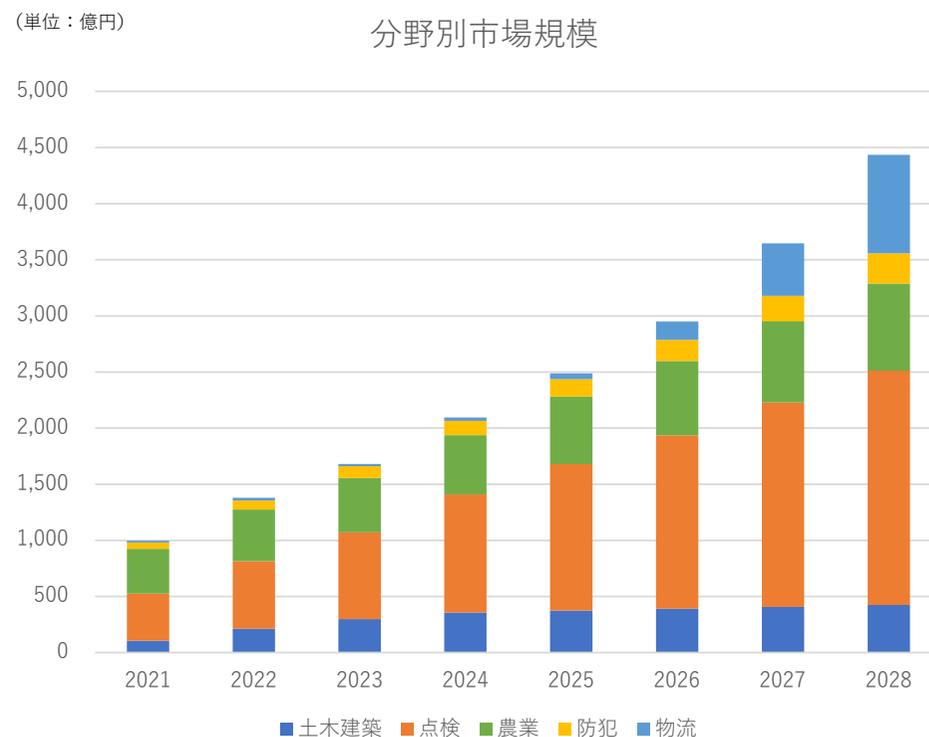
APPENDIX

国内ドローン市場は引き続き拡張中



2028年ドローン機体の出荷規模は2,281億円の見込み

*ドローンビジネス調査報告書2024 (インプレス総合研究所) を基に当社で作成



点検業務が伸張し、2026年以降は物流での増加を見込む

測量



公共下水道工事計画に伴う活用

株式会社帝国建設コンサルタント 様

下水道事業の全体計画においては範囲内の地形勾配が重要となるため、全ての道路交差点中心及び勾配変化点、平面的変化点をネットワーク型RTKにて3次元計測を行い、その成果を用いて下水道配管計画へ反映させる業務を実施。従来法と比較し、1,200haという広範なエリアを短時間で効率良く作業する為にはネットワーク型RTKが現状では最適であると判断し活用している。

IT農業



無人田植機システムへの活用

独立行政法人中央農業総合研究センター様

田植機を自動作業させるため、目標とする走行経路の設定を行い、これに沿って自動的に走行。あらかじめほ場の入り口と四隅の位置を測っておき、これを初期データとしてコンピュータに記憶。ほ場入り口付近に田植機をおき、プログラムをスタートさせると、ほ場内に進入し、記憶した四隅の位置データをもとに自動的に走行経路を作成し、作業を開始します。

土木ICT施工



転圧管理システムで活用

宮城建設株式会社 様

久慈北道路事業計画内で発注された道路改良工事を受注し、盛土の締め固め管理を行うため、情報化施工の活用を決定。GNSS受信機+転圧システム+ジェノバ配信によるネットワーク型RTKを利用した転圧管理システムを現場採用しました。

ドローン



森林資源量の調査で活用

KDDI株式会社様、国際航業株式会社様

兵庫県庁（神戸市）から約70km離れた宍粟市のドローンを遠隔操作し、同市の森林をネットワーク型RTKサービスを活用した位置精度が高い画像で撮影することで、森林資源解析用データの効率的な作成に寄与することを確認しました。

インフラ

簡易的なGNSSスキャナーを活用した現場調査

～携帯電話のライダー機能を利用した3D計測～



株式会社近代設計 様

3D点群が容易に取得することができ、計測した長さも3D点群上で再現できました。また現場は他社が事前にドローン測量を行っており、ドローン測量を行っていない部分を補足するようにスキャンを実施したところ、ドローン測量の成果座標値に合致する形で、3D点群を取得することができました。ジェノバ社のサービスを利用したことが、より高精度な観測結果かつ、他の成果との整合性がとれた点に寄与していると考えております。このことから熟練者が現地調査する必要もなく、かつ多くの情報を取得することができることから、作業の効率化が期待できます。

IT農業

草地造成改良作業のスマート化にネットワークRTKの活用



公益財団法人 北海道農業公社様

いずれの作業もトラクターをはじめとした農機で行うのですが、農地に対してまんべんなく作業を実施するために（作業ムラがないように）、農機の操縦に熟練度が求められます。そこで農機にGNSSアンテナと受信機を搭載し、高精度な位置情報を取得し、位置データを基に自動操舵させることで、スマート化を実現させました。スマート化した農機の作業は、熟練ドライバーが実施した作業成果と遜色なく、業務の人手不足の問題解消に寄与することがわかりました。ネットワーク型RTK（VRS）は、RTKに必要な基準局が仮想のため、基準局の機器設置やメンテナンスの必要がないことと、全道どこでも同じ品質で作業できることがメリットと言えます。

エンターテインメント

ネットワーク型RTKサービスを活用した自動音声ガイド 実証実験の活用



KDDI様、沖縄セルラーアグリ&マルシェ様、
motti 西表島トレッキングエコツアー様、竹盛
旅館様、沖縄県竹富町様

従来の非対面型の音声ガイドによる
観光案内は位置情報の誤差が大きく、
反対方向の説明をするなど見ている
ものと内容が合いませんでしたが、
ネットワーク型RTK活用の高精度
位置情報とGNSSコンパスの連携
により、体の向きに応じた観光案内
など精度の高い音声ガイドを行うこ
とができました。これにより、ス
マートフォンなど観光客の操作が不
要になり、ストレスフリーな西表島
観光ガイドを非対面で実現しました。

測量

マルチGNSS測量(Galileo)を活用した ネットワーク型RTK法による広範囲測量について



株式会社水野建設コンサルタント様

国土交通省の直轄河川における定期縦横断測量に伴う距離標台帳の更新および距離標座標の確認作業にネットワーク型RTKを採用。作業範囲が広範囲に渡るため（観測点数が270点ほどあり）、作業効率を上げ、時間短縮を図るために少人数で測量できるネットワーク型RTKを利用しました。測量調査地区には山間部も含まれており、GNSS測量に必要な上空視界に制約がある場合があり、今回はヨーロッパのガリレオ衛星を使用することができる「マルチGNSS測量マニュアル（案）令和2年6月」を活用し、使用衛星数を増やすことで右側の写真のような藪の中でも座標値を観測することができました。マルチGNSSを使用することで、これまでGNSS測量では困難とされてきた地区での使用が期待できます。

土地家屋調査

ネットワーク型RTK法による単点観測に基づき行う 登記多角点測量/写真測量/レーザースキャナー計測



ネットワーク型RTK法を利用した単点観測法のマニュアル運用開始に伴い、公共座標として認められることとなり、座標指定による仮想基準点設置や国家基準点を用いた点検など、より多くの測量作業で利用できるようになりました。
登記多角点測量だけでなく、ドローンによる写真測量の標定点設置やレーザースキャナーの検証点設置も容易になり、作業の効率化につながっています。

教育

国土交通大学校にて専門課程 普通測量研修の講義、測量実習を支援



国土交通大学校測量部において、ネットワーク型 R T K - G N S S について講義を実施し、講義後にネットワーク型 R T K の実習を行いました。本実習では、ネットワーク型 R T K による観測が省力的に行えることに加え、短時間で座標値を求めることができることを体感いただきました。また、観測時の観測精度やくい打ち機能についても説明し非常に簡単に使用できることを実感いただきました。

株式会社ジェノバ（証券コード：5570）

IRに関するお問合せ： 経営企画室



support-ir@jenoba.jp

本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な統計等第三者情報についての正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、現時点の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化やお客様のニーズ及び嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

決算短信による決算発表は、適時開示の要請に基づき行われるものであり、決算短信の公表時点では監査報告書は未受領となっております。

本資料は、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に際しては、投資家ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。